

大本堂について

石橋を渡り石段を登ると見えてくる建物が、大本堂です。この建物は、1968年(昭和43年)に建立されました。設計は吉田五十八先生です。構造は、RC造です。ここで成田山の正式名称を紹介すると、「成田山明王院神護新勝寺」です。しかし通常「成田山金剛王院新勝寺」を使用しているそうです。堂内では、お護摩祈祷が行われます。お護摩とはお不動様のご利益を授かる炎の儀式とのこと。お火加持をしていただき不動明王御真言を唱えるわけですが、この項での紹介は、ここまでにします。興味のある方は、一度参拝してみてください。



三重塔について

大本堂の右手前に配置されている建物が、三重塔です。1712年建立とされています。この三重塔の見所は、絢爛豪華な板垂木でしょう。極彩色の雲水紋が彫られています。このような彩色を施す塔は、日光の五重塔だけでしょう。この塔の右奥にある建物が鐘楼です。1701年建立で光明堂と並んで境内では一番古い建物とされています。この鐘楼も絢爛豪華な彩色が施されています。



因みに成田山の職員さんの手で毎日朝昼夕と撞かれています。従って参拝者は撞くことが出来ません。

釈迦堂について

釈迦堂は、江戸時代後期(1858年)に建立された旧本堂です。お堂の回廊には、五百羅漢像や二十四孝の彫刻を拝観することが出来ます。特に父親の法要などの時に父親に似た羅漢像を探して偲んだそうです。特に私は、おなかを開いて見せその中に仏様が現れる羅漢様に惹かれます。探してみてください。



額堂について

額堂は、1861年に建立された、奉納された額や絵馬を飾る為のお堂です。2016年には耐震改修が施されました。床下部分が土間より約2m高く12本の柱のみで支えているため、



倒壊の危険が有りました。そこで四隅の柱に鉄パイプで補強をして以前の根接ぎ部分には、金属板にてベルト状に補強をしました。

